

主なご質問と回答

このページでは、「泊発電所敷地外での核燃料物質等の輸送・運搬に関する説明会」の会場でお寄せいただいた主なご質問とその回答に加え、よくあるご質問とその回答について掲載しています。

1. 説明会でお寄せいただいた主なご質問と回答

Q. 荷揚場と陸をつなげるのにはどのような構造にするのか。

A.

- ・輸送船の停泊のための水深を確保できる位置に荷揚場を建設することを検討しています。国道から約 200～300m 沖合に行くと、海底地形の掘削を最小限としながら輸送船に必要な水深を確保できるため、沖合に荷揚場を作り、陸につなげる専用道路を作ります。専用道路は、今のところ浅い場所では盛土等をする事を考えています。

Q. 国道の下を通過後、泊発電所に至るまではどこを通過するのか。新しい避難道路（道道泊共和線）側まで行くのか。

A.

- ・泊発電所の後背地は標高約 50m であり、専用道路には勾配をつけ、トンネルと橋を組み合わせる構築します。沢もあるため、盛土等をして渋井の住宅地の奥を回り、堀株トンネルの上を通行する予定です。新しい避難道路（道道泊共和線）まではいきません。

Q. 荷揚場完成後、周辺地域は規制されるのか。例えば前浜で海藻を採ることはできなくなるのか。

A.

- ・専用道路は防護フェンスを設置して立入禁止とし、外からアクセスできないようにしますが、皆さまの生活しているところには影響がないように設置することを考えています。荷揚場は陸から離れているので前浜での作業に影響は無いと考えています。また、国道 229 号線の通過に影響はありません。

Q. 輸送物を運搬している最中に地震が起きた場合、どう対応するのか。

A.

- ・トンネルは技術基準に基づき耐震性が確保された構造とするため、輸送物を荷下ろし後、車両に載っている時に地震が起きた際は泊発電所まで運搬します。輸送船から輸送物を吊っている状況であれば、車両または輸送船に戻して退避することになります。

Q. 新燃料と使用済燃料の危険性について説明してほしい。

A.

・新燃料と使用済燃料では性質が違います。新燃料は発熱せず、通常のトラックで輸送しています。一方、使用済燃料は発熱し放射線を出すため、運搬の際用いるキャスクは厳しい基準で作られており、特に未臨界性・遮蔽性・密封性・耐火性が確保された容器で輸送しています。

Q. 使用済燃料の搬出は、荷揚場からの輸送となるため、これまでより長距離の搬出となると思う。使用済燃料にはプルトニウムが含まれていて、テロリストに渡ると大変なことになると思うが、どのような警備体制とするのか。

A.

・使用済燃料がテロリストの手に渡らないよう、適切な警備を行い、一般の人を近づけない構造とすることでより安全・円滑な輸送となるよう泊発電所では一般道を経由しない専用道路とします。搬出時には、住民の皆さまに不安を与えないよう、また生活を脅かすようなことが無いよう計画していきたいと考えています。

Q. 環境保全、環境影響評価についてどう考えているのか。

A.

・環境影響に関してはこれから検討していくこととなります。荷揚場の位置・大きさを決定後、設置する面積が法令に基づく環境アセスメントおよび道条例に基づく環境アセスメントの対象となるかを確認し、対象となる場合は必要な対応を実施していきます。

Q. 定期検査や燃料等の搬入出の経験が無い社員が多くなっていると思うので、教育を進めてもらいたい。

A.

・東日本大震災以降に入社した社員が増えていることから、これまでも再稼働しているプラントに運転員等を出向させ、経験を積ませています。核燃料等の輸送の警備についても同様ですので、しかるべき時期に他プラントで勉強する機会を設けて安全に進めていきたいと考えています。

Q. 泊発電所3号機の新燃料はどの程度保管しているのか。荷揚場等は比較的早い時期に建設することになるのか。

A.

・新燃料は、数年程度運転できる量を貯蔵しています。燃料がなくなって運転できないことにならないよう、できるだけ早く荷揚場および輸送経路の設計・建設を行っていききたいと考えています。

Q. 詳細な計画が決まった後に改めて住民説明の機会は設けるのか。

A.

・今後、調査や詳細設計を進め、具体的な計画が決まりましたら、改めて説明させていただきます。

2. よくあるご質問と回答

Q. 新設荷揚場と輸送経路の候補地を渋井地区としたのはなぜか。

A.

- ・燃料等をより安全かつ円滑に輸送することを念頭に、核セキュリティにも配慮しながら泊発電所の周辺に荷揚場・輸送経路を構築することで、輸送距離を短く設定し、かつ、お住まいの地域からも一定の離隔を確保できる経路となるよう選定しました。

Q. 荷揚場の輸送経路の長さはどれぐらいか。

A.

- ・輸送経路については、おおよそ 1.8km 程度になるものと考えています。

Q. 防波堤の仕様（長さ、海面からの高さ）はどれぐらいか。

A.

- ・防波堤は、荷役作業実施時に船の揺れを少なくするために設置が必要となります。防波堤の長さや高さ等の具体的仕様については、今後必要な調査を実施し設計を進めていきます。

Q. 一回の輸送で、輸送船は何日ぐらい停泊するのか。

A.

- ・新燃料や使用済燃料の輸送については、これまでの実績では概ね 1 日で完了していません。
- ・低レベル放射性廃棄物については、数日かかる実績となっているため、夜間の停泊に備えた警備体制や津波来襲に備えた運用等について、今後検討を進めていきます。

Q. 輸送車両、輸送容器の大きさはどの程度か。

A.

- ・新燃料や低レベル放射性廃棄物は「一般的なトラック」で輸送します。使用済燃料は「専用トレーラー」で輸送します。
- ・新燃料輸送容器は全長約 5m 強×高さ約 1m 程度、使用済燃料輸送容器は全長約 6m×直径約 2.6m 程度、低レベル放射性廃棄物輸送容器は縦約 3.2m×横約 1.6m×高さ約 1.1m 程度の大きさです。

Q. 燃料等輸送時は周辺住民へお知らせするのか。

A.

- ・おおよその時期・輸送方法等については年に 1 回輸送計画を公表しており、また、輸送完了後速やかに当社ホームページで概要をお知らせしています。
- ・なお、核セキュリティ上の観点から日程等の詳細は事前にはお知らせしていません。

Q. 津波の第1波が約14分で来襲するのに対して、新たな荷揚場から緊急退避は可能なのか。具体的に何分程度で退避可能なのか。

A.

- ・退避に最も時間を要する荷役作業中からの退避においても、早期に新設荷揚場からの離岸が可能であり、離岸以降は早期に沖合へ退避できる荷揚場形状としていることから、津波来襲前までに津波の影響を受けない安全な海域まで退避できると考えています。
- ・燃料等輸送船の実機を用いた緊急離岸訓練の結果から、退避に最も時間を要する荷役作業中からの退避においても、約7分半で離岸が可能となります。

Q. 荷揚場はいつから工事開始するのか。

A.

- ・具体的な工事開始時期については未定ですが、荷揚場の構造や運用を含めて設計詳細を検討していくため、現状の見通しとしては、泊発電所3号機の再稼働後になると考えています。
- ・泊発電所の運用に影響を及ぼさないよう、必要な検討・調整を行い、可能な限り早期に完成させることを目指していきます。

Q. 荷揚場の設置にかかる費用はどの程度か。

A.

- ・荷揚場の位置等詳細は、今後必要な調査・設計を踏まえて検討していくこととなりますが、荷揚場等の設置に係る設備の費用に関しては、回答は差し控えさせていただきます。